

長岡市・与板町合併協議会

第2回新市建設計画策定小委員会次第

日時：平成17年2月3日（木）
午後5時から
場所：長岡市役所第3委員会室

1 開 会

2 委員の変更について

3 地域別整備・活動方針について

4 意見交換

与板地域の地域別整備・活動方針による新市のまちづくりについて

5 その他

6 閉 会

長岡市・与板町合併協議会
新市建設計画策定小委員会委員名簿

(平成17年2月1日現在)

	区分	役職名	氏名	備考
長岡市	行政	長岡市助役	二澤和夫	
	議会	長岡市議会 市町村合併調査研究委員会委員長	大地正幸	
与板町	行政	与板町総務課長	安達正廣	
	議会	与板町議会 市町村合併問題特別委員会委員長	石丸誠亮	
学識経験者		長岡造形大学理事長	豊口協	
		長岡大学助教授	鯉江康正	
		新潟県長岡地域振興局長	阿部誠一	

「与板地域の夢」検討の流れについて

「与板地域の夢」の検討は、長岡地域新市将来構想策定時の手法と策定プロセス（将来構想 P51、52 参照）を踏襲し、以下の内容と流れで進めました。

検討内容

地域の資源・素材などを残らずあげる
 他の地域の資源・素材などを知る
 地域らしさ価値実現に向けた地域の役割を考える
 地域の役割を果たすための地域別整備・活動方針を考える
 新市の重点実現項目と、地域別整備・活動方針から各地域の活動展開のあり方を検討する。

検討の流れ

ステップ 1

地域の歴史・風土・住民活動などの整理
 地域資源の洗い出し
 新市における地域資源の活用方法検討
 地域のまちづくりに対する思いの抽出・絞り込み

『新市地域らしさ価値』

ステップ 2

「新市地域らしさ価値」実現に向けての地域の役割検討
 訴求点（強み）の展開
 「新市地域らしさ価値」を高める＜地域の強み（CAN）＞
 ＜方向性＞と＜実現すべき事柄（WILL）＞の整理

『重点実現項目』

ステップ 3

地域別整備・活動方針の検討
 地域別整備・活動方針毎の活動展開検討

6市町村企画総計・合併担当ワーキングメンバーの意見

ステップ 4

「与板地域の夢」素案とりまとめ

第 2 回新市建設計画策定小委員会で審議・策定

- 新市全体のありたい姿 - WANT

与板地域において

独創企業が生まれ育つ都市

～誠実さが生み出す「技」立国・新ながおか～

を高める方向性

- ・特有の地域資源を他地域との交流を通じて、これまでになかった活用方法などを考えていくことで、新市全体の独創力を高める

- 活用したい地域資源 - CAN

- 越後与板打刃物
- 伝統工芸士
- 転作大豆日本一
- 自慢の大判焼
- 竹酢液などの新たな資源による製品化の動き
- 自らの夢を実現しようと活動する人々
- 一貫的教育環境

- 実現すべき与板の姿 - WILL

与板地域整備・活動方針

特有の地域資源を活用した 独創と起業を進める地域の形成

- ・歴史や自然が培ってきた様々な地域資源を活用し、新しい切り口による製品や技術、ビジネスの開発につなげていく

実現していくための活動・展開

見極める

伝統技術をはじめ、地域にある様々な資源の活用方法について、地域の様々な組織・人材と共同で考える仕組みづくりを行う

発信する

与板地域の詳細な地域資源の内容について発信し、他地域資源との連携の基礎とする

育てる

大学との共同研究や他地域の企業との共同開発など、地域内の活動を外部に広げるための地域全体での支援体制づくり
教育の一貫的な体制を活用した技術の伝承

- 新市全体のありたい姿 - WANT

与板地域において

元気に満ちた米産地

～まごころ米の生まれる里・新ながおか～

を高める方向性

- ・各地域における様々な文化を保存、発掘し、地域づくりの「心の核」としていくことで「元気に満ちた米産地」の文化を体現する地域としての一翼を担う

- 活用したい地域資源 - CAN

- かつての郡都、信濃川舟運が育んだ歴史文化・景観
- 現在も伝えられる農村部の文化
- 転作大豆日本一と生産組織の努力
- 河川公園実現に取り組んだ地域の動き
- 市街地のホテル

- 実現すべき与板の姿 - WILL

与板地域整備・活動方針

地域づくりのよりどころとなる 「歴史と田園が織りなすふるさと」 の形成

- ・登り屋台やかぐら舞いなどの、各地域の文化の相違性を再認識し、それぞれの文化を共有することで、統一的な真の地域づくりの信念の形成と、景観形成などによる信念の具現化を展開する。

実現していくための活動・展開

見極める

農村部のかぐら舞いなどの伝統芸能、伝統文化、風習の掘り起こし活動
登り屋台や寺社など、地域を代表する資源を再認識するための機会づくり

発信する

与板の地域資源の活かし方を含め、地域づくり活動全般を発信し、他地域における事例を収集する

育てる

地域づくりの信念について話し合う場を設け、与板地域全体としての共有価値を育む
共有価値の具現化として現在よりも良い景観にかえていくための取り組みを市民・行政が協働で行う。

- 新市全体のありたい姿 - WANT

与板地域において

世代がつながる安住都市

～未来人を育む資源博物館・新ながおか～

を高める方向性

- ・他地域との交流によるすべての体験や感情を、地域の財産として捉え、その体験の中に地域がよりよくなるための問題点や課題を発見することで、“真心で地域づくりを進めることができる地域”を目指す

- 実現すべき与板の姿 - WILL

与板地域整備・活動方針

積極的な交流で、
常に育ちつづける
地域と人づくり

- ・現有している豊富な地域資源の現状の力を冷静に捉えることで、その中に本当に地域が求めている理想の地域像を持てる地域と人づくりを目指す

実現していくための活動・展開

見極める

地域資源の客観的な強みを認識する活動の実践
現在、行われている学校教育活動を地域全体に発展させ、時代や出来事に応じた住民の様々な思いを記録する活動を実践

発信する

地域資源の内容発信や他地域との交流を通じて、与板地域への評価や感想を収集する

育てる

現存する活動人材を中心に、上記の調査結果をふりかえり、話し合うしくみや環境づくりを行う

- 活用したい地域資源 - CAN

コンパクトな町に点在する豊富な資源

- ・ 楽山亭、積翠菴、良寛縁の碑
- ・ 志保の里荘、障害者地域交流センター
- ・ 河川公園、キャンプ場、森林公園
- ・ 与板十五夜まつり、伝統芸能文化子供教室
- ・ 3城址と多数の史跡

学校教育で続けられている“思い”の記録

地域の人材バンク

組織は小さいが、夢を実現しようとする人材

河川公園をつくった地域の力

- 新市全体のありたい姿 - WANT

与板地域において

世界をつなぐ和らぎ交流都市

～「人」「ものがたり」「競和国」・新ながおか～

を高める方向性

- ・新ながおか全体の視点から与板の資源の役割と活用法を模索し、提供する地域の創造を目指す

- 実現すべき与板の姿 - WILL

与板地域整備・活動方針

豊富な歴史文化や人柄が創る、
まごころのもてなし発信地域

- ・歴史・自然が培ってきた豊富な地域資源を、他地域と連携することによって、新市全体を魅力的に高めるようなもてなしネットワークの形成と支援に取り組む

実現していくための活動・展開

見極める

「米産地」で高めた地域資源や人材の活用方法を考える活動
質が高く、魅力的な新ながおか観光交流ルートの検討と提案活動

発信する

新ながおかもてなしネットワークの提案を発信しながら、他地域の意見収集活動を行う

育てる

新ながおかもてなしネットワーク形成において重要な事柄(民泊推進など)を率先して取り組む地域体制づくり

- 活用したい地域資源 - CAN

かつての郡都、信濃川舟運が育んだ文化

登り屋台...与板十五夜まつりの華やかさ

にぎわいの中心、河川たちばな公園

ライトアップ事業の取り組み

自分の興味を持っていることに自由に取り組む地域の気風

地域の人材バンク

直江兼続

まごころ込めて作った大判焼



地域の夢

与板地域

「新市地域らしさ価値」を高めるための与板地域の方針と活動

与板地域は、こんなところ

与板町の成り立ち

与板町は、新潟県のほぼ中央に位置し、東には信濃川を望み、西には西山丘陵の緩やかな山林を背景とした、水と緑に囲まれた町です。長岡ICから車で約20分、中之島・見附ICからは車で約15分、JR長岡駅からバスで約40分の距離にあり、都市近郊と自然が融和した住みよい町でもあります。

東半分が耕地で、西半分が緩やかな山林となっていて、柏崎市に源を発した黒川が、町の南端から耕地の中央を縦貫し、北の端で信濃川に合流しています。

「与板」という名称の起源ははっきりしませんが、康平3年(1060年)の越後地図には「與田」とあり、寛治元年(1087年)には「與板」と記されているところから、このころには集落が形成されていたものと思われます。縄文中期以後の生活跡とされる遺跡が発見されたことから、はるか昔から漁労・狩猟・採集に適した理想的な地であったと考えられています。

名将が治めた城下町

与板には、室町から江戸にかけての時代、それぞれの武将、明主が居城した三つの城跡があります。

上杉謙信の重臣として手腕を発揮した直江景綱などが居城した本与板城(山城)、上杉景勝の重臣であり、豊臣秀吉をして、「戦国武将3大人物の1人、希代の英傑」と

与板地域の方針と活動 (右頁参照)

与板地域において「新市地域らしさ価値」を高めるための方向性と、活用したい地域資源(地域の強み)から検討した、将来実現すべき地域の姿(整備・活動方針)と実現のための活動・展開を提示します。



いわしめた直江兼続が居城した与板城(山城)、江戸時代から井伊氏が居城した与板城(平城)があり、現在の市街地の町並みは江戸時代からの名残であります。現在、それぞれの史蹟保存会等により城跡の保存と歴史が受け継がれています。

また、それを象徴するように歴史的な文化財も多数あり、両方の山城は県の文化財指定を受け、与板城(平城)の入口と通用口である大手門と切手門、藩祖である井伊直政が徳川家康から賜った孔雀尾具足羽織など19の町指定の文化財が、町の各所や資料館で保存されています。

地域活動が活きる教育環境

一つの町に保育園、幼稚園、小学校、中学校が各校ずつあることから、地域と学校とのつながりが強く、郷土の歴史、動植物や商店街探索など地域住民が先生となって児童・生徒たちとふれあう機会が多くあります。あわせて、社会教育とのつながりも密で、スポーツ少年団、少年リーダー研修等文化・スポーツ団体の活動が活発に行われています。

幼稚園には清風園、小学校には河川公園、中学校は黒川の堤防があるなど、豊かな自然に囲まれた環境は、次世代を担う心豊かな人材を育てています。

もっと

詳しく地域の力

与板地域

西山丘陵の自然を活かした森林公園や中腹にある楽山亭から市街地を見下ろすと、そこには広大なパノラマが目に映ります。「水静かなる信濃川」と小学校の校歌にも歌われている大河信濃川を前面に、平地に立ち並ぶ町並、「米どころ」越後平野の一端を担う水田がそれを囲むように広がっています。緑豊かな自然の中に育まれた濃やかな人情と歴史に引き継がれる伝統文化を合わせ持つ、情緒豊かな地域です。

自然が生み出す人づくり

市街地の中心を流れる旧黒川沿いに造られた河川公園では、毎年5月の新緑の頃、リバーパークフェスティバルが開催されます。子どもから大人まで楽しめる内容盛り沢山の手作りイベントは、住民有志で結成される実行委員会で運営されています。

緑に囲まれた森林公園は、昆虫、野鳥、植物などの宝庫です。現在、住民の自主グループにより、自然保護と体験学習を目的とした「昆虫の森プロジェクト」や「カブトムシ育て隊」が結成され、自然を活用した様々な活動が行われています。

このような住民活動をより広げることにより、地域にある資源を大切に守るとともに、地域を知り、共同活動の中で人をいたわり、助け合う心を養う人づくりを次世代につないでいきます。



河川緑地たちばな公園

町の中心を流れる旧黒川沿いにある通称“河川公園”は300本以上の桜と18万本もの花菖蒲が植えられ、子供が楽しめる様々な遊具もあり、休日には町内外からの家族連れなどでにぎわう憩いの場です。



登り屋台

“屋台坂”を引き上げられる登り屋台は、毎年9月中旬に行われる与板十五夜まつりのメインイベントです。240年余の歴史を誇り、勇壮で住民の心が一つになれる町のシンボルです。



楽山亭

豪商「大坂屋」三輪家により造られた楽山亭は、町民から“別荘”と呼ばれ親しまれています。新緑の頃にはライトアップが実施され、たくさんの人でにぎわいます。



越後与板打刃物

戦国時代に起源を發する与板の打刃物。400年余の伝統と技は全国一の主産地となり、昭和61年に「越後与板打刃物」として伝統的工芸品の指定を受けました。



うまみち森林公園

豊かな自然を満喫できるこの公園は、ツリー型バンガローハウス、オートキャンプ場サイトの整備など、自然に親しみやすく楽しめるキャンプ場にリニューアルしました。